



県評しずおか

静岡県労働組合評議会

〒422-8062
静岡市駿河区稲川2-2-1
セキスイハイムビルディング7階
TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973
Eメール kenpyo@mail.wbs.ne.jp



県民各層の切実な要求を県当局に要請する参加者＝10月23、24日、県庁会議室

県民を守る要求を 県に要請

10月23、24日「軍事費を削って、暮らしと福祉・教育の充実を求める」大運動静岡県実行委員会は、静岡県に今年で40回目となる申し入れを行いました。県評をはじめ新婦人・県商連や原発なくす会などの各団体から延べ161名が参加し9の部局へ県民要求について要請しました。

代表幹事の石井秀之県商連会長から「私たち県民要求の実現に向け今日は頑張りましょう」とあいさつがありました。

1日目は「危機管理部」「交通基盤部」「経営管理部」「健康福祉部」へ。2日目は「くらし・環境部」「経済産業部」「文化・観光部企画局」「教育委員会」へ要請しました。

県評からは

①公契約制度制定について
②リニア中央新幹線問題について
③労働問題について
各部署に要請をしました。

子どもと教育を考える静岡県民会議は10月6日、財政・地方財政専門の川瀬憲子静岡大学教授にお願いして「教育予算と地方財政を考える」学習会を行いました。

「教育全国署名」に関わって、財政の観点から学びたいとの要求に応えたものです。

川瀬教授は、非正規雇用の拡大、貧困化等の中で教育格差が拡大されているとし、それに対し国の教育支出は国際的に見ても低く、財政構造改革による国庫負担率引き下げなど文教科予算を削減してきていると述べられました。

地方財政の役割は大きく、国より地方の方が多く歳出している実態があります。

財政の観点から 教育予算を考える

子どもと教育を考える静岡県民会議は10月6日、財政・地方財政専門の川瀬憲子静岡大学教授にお願いして「教育予算と地方財政を考える」学習会を行いました。

元気とやる気を もらった集会

東海北陸ブロック 組織拡大交流集会

この懇談で出た声を、県民の切なる要望として受け止め次年度の施策に反映させるよう、しっかりと見守っていかねばなりません。



10月27、28日にサンパーク犬山で開かれた東海北陸ブロック組織拡大交流集会に参加しました。

全労連事務局次長の黒澤幸一さんの講演がありました。非正規の有期雇用から無期転換プロジェクトの市民講座を開催したところ、新聞掲載もあり、多くの市民の参加につながり、関心



川瀬教授の講演

しかし国は「適正化・効率化」を名目に地方の歳出を抑制しようとしています。財政統制・財政誘導して地方財政の国家的統制も図っています。地方交付税交付にトップランナー方式を導入し、「歳出の効率化の観点から、民間委託等の業務改革を実施している自治体」を基準とした経費見直しを地方に押し付けています。それが人件費削減と指定管理者制度にみられる民間委託・民営化につながっています。

本来「地域再生」のはずが、安倍政治の「地方創生」にすり替えられているとして警鐘を鳴らされました。

参加者は「署名活動や要求項目だけに目を注ぐので

講演する川瀬憲子静岡大学教授11月6日、教育会館

はなく、こういう大きな観点からの学習も必要だ」「学校統廃合などの動きの仕組みが分かった」と語っていました。

学習会終了後、街頭で「教育全国署名」を行い短時間で30筆あまり集まりました。

開会のあいさつをする樽松議長
＝27日、サンパーク犬山

の高さがうかがわれたこと。参加者が持参した契約書を見ると、モノが言えない厳しい契約書であったり、巧みにクーリングが定められていたり、雇止めが出来るようにされているようです。正しい情報を知らせる必要があると思いました。

悪政が続くことは安倍首相がくれたプレゼントだと考え、組織化するチャンスに変えようとの話に元氣とやる気もらいました。

また、市民講座では、労働組合の組織率が下がると賃金が下がる。無期になると、雇止め止めの不安が解消する。組合があると、年休など権利がとりやすくなる。また、無期転換制度の注意点を知らせ契約書はすぐにサインしないで労働組合に相談することなどを知らせているそうです。

署名してしまったクーリングの人も、組合に入って要求書を出しただけで雇止めはなくなった事例があったそうです。

要求と組織拡大の相乗効果を一体で考えて行動すること。労働者が組織化しな

貸会議室のご予約・お問い合わせは
一財) 国鉄労働会館静岡地方部へ
TEL054 (285) 4426・FAX054 (283) 6835

静岡駅から徒歩1分

定員14名(2部屋)・20名・30名
少人数の打合せ・会議・講習会におすすめです



一コマ漫画



疑惑のデパート

『看板』もあります!!

高齢者も若者も 安心できる年金を

「10.30 静岡年金フェスタ・一揆」開催



日ごろの練習の成果を披露する組員＝30日、静岡市葵区コミュニティホール七間町

年金は、ここ数年削られ続けています。国は「このままでは年金制度の維持はできない」と不安をあおり、現役世代と高齢者の分断を図っています。年金制度は「高齢者も若者も安心できる年金」にすべきです。午前中は街頭宣伝、午後1時より年金フェスタの集いと、アピール行進を行いました。

静岡市葵区のコミュニティホール七間町で行われた集いで、実行委員会を代表して佐藤利保年金者組合静岡県本部委員長は「安倍政権による年金減額、憲法改悪に声を上げよう」とあいさつをしました。県評からは松川功副議長が「消費税増税10%を中止させ、年金の改善、労働者が普通に暮らせる賃金に」と連帯のあいさつをしました。

また、会場では絵画など組員のミニ作品展と、ハーマニカ演奏やフラダンス、女声合唱、男声合唱、アコーディオンの演奏など文化行事が行われ会場を沸かせていました。

静岡県労働研究所 No.44

所得を上げるといふ政策のパッケージで、最低賃金の引き上げが中心です。韓国では2年間で3割弱という驚異的な賃上げが実現しました。韓国独自の制度である週休手当（週40時間働く）と48時間分の賃金が支払われる仕組み）を含めると、来年1月からの時給は実質千円になります。韓国の最低賃金は全国一律なので、日本のどの地域の最低賃金よりも高くなります。

政府は最低賃金引き上げに伴い、自営業者に補助金

韓国の労働事情 ―驚異的賃上げ―

その1



韓国の国会議事堂前で参加者全員で記念撮影

等支出を行って、補助金を受け取れない業者も多く存在し問題となっています。

2番目は、公共部門で質の良い仕事を増やす政策で、公務員の数を増やすこと、公共部門で非正規労働者を

過労死のない 職場と社会のために

過労死等防止対策推進シンポジウム

11月2日（金）パルシェ会議室で、厚生労働省主催の「過労死等防止対策推進シンポジウム」が行われました。『過労死を生み出さない職場と社会のために』をテーマに、働き過ぎやパワハラ等の労働問題による過労死や心身の健康が損なわれている深刻な社会問題に関する現状や防止策について講演、報告がされました。

夫を過労自死で亡くされた寺西笑子さん（全国過労死を考える家族の会代表）は、過労死をなくすために尽力してきた経緯を話され、一人で抱え込まず、すぐに信頼できる所へ相談してほしいと訴えました。

小笠原里夏弁護士は、木村事件（小学校教諭自死）の概要と、同じような事件を防ぐために精神的に健康に働ける制度の充実の必要性を話されました。また、その制度は客観的であり、ついていけない労働者は資質がないと切り捨てる制度であってはならないと指摘しました。

長谷川吉則さん（三島共立病院医師）は「長時間労働

職場の安全衛生を実現するために 静岡県安全健康センター No. 55

化学物質「モカ」による膀胱ガン その3

10月25日の新聞によれば、発がん性のある「モカ」に関する厚労省の調査結果が発表されました。全国7カ所の事業場で、労働者と退職者17人が膀胱ガンを発症していたことが明らかになりました。

富士市にある旧イハラケミカル工業（現組合化学工業）では9人（12人との報告もある）が発症、その他6カ所の事業所で8人の発症です。

私たちは、イハラケミカルの「モカ」による膀胱ガンの発症について、労災の動きが見えないため、静岡労働

局に調査に行き、その後厚生労働省に要請行動を行いました。その中で福井県で起こった類似事案である「オルトリイジン」による膀胱ガン発症の際に、会社が労災隠しの動きをしたことなども追求しました。厚労省はその場でさらなる調査を約束し、労災についても手立てを考えると回答しました。厚労省は、要請行動からわずか100日間で調査を行い、その結果が今回報道されたものと思われ、その中で労災請求が1件もないことに関して、労働者本人や遺族に労災制度の仕組みや手続きを直接知らせる方向で検討する事にしたと言っています。これは大きな前進ですが、今後イハラケミカルにおいて着実に発症者に労災申請・認定が及び、労働者の利益になるように現地でも頑張っていく必要があります。近々労働局との再度の話し合いを予定しています。

モカ（MOC）とは
モカは、ウレタン樹脂を固める硬化剤に使われる化合物で、WHOは2010年発がん性を認定している。日本には取り扱い作業歴のある労働者が3700人超るといわれている。



前進座公演『ちひろ』私、絵と結婚するのー』実行委員会は県評会議室で「ちひろ」の台本を書いた朱海青さんに作品の魅力について10月26日、お話ししてもらいました。

朱海青さん（写真）は7年前までは俳優（高柳育子）をやっていたが、出産を機に劇団の裏方をやりながら（子育て中は長期にわたる旅公演ができないため）昨年からは脚本家養成講座に

「ちひろ」の生涯を描く 借りて戦後の生き様を描く

前座公演『ちひろ』私、絵と結婚するのー』実行委員会は県評会議室で「ちひろ」の台本を書いた朱海青さんに作品の魅力について10月26日、お話ししてもらいました。

朱海青さん（写真）は7年前までは俳優（高柳育子）をやっていたが、出産を機に劇団の裏方をやりながら（子育て中は長期にわたる旅公演ができないため）昨年からは脚本家養成講座に

通い、今回の作品「ちひろ」でデビューとなります。

芝居は、敗戦の翌年1946年一人でボストンバック一つ持ち上京したころの、ちひろの葛藤と成長の時代の3年半を描いています。

ちひろにとって、この時代が平和を願う子どもの幸せを願い、生涯絵筆をとった原点になったとされています。

この芝居は「ちひろ」の生涯を借りて戦後の時代の若者の葛藤と成長、生き様を描く舞台となっています。

ぜひ12月5日（水）清水文化会館マリナートへ足を運んでください。

開場 13時
開演 13時30分
前売り 5000円
チケットは
県評にあります